

(別紙)

耐震計算の誤入力に係る再発防止対策の実施状況

2020年7月
日本原燃株式会社

1. はじめに

2007年8月21日、当社社長は、青森県知事に再処理施設における耐震計算の誤入力に係る報告を行い、2007年8月31日、青森県知事から以下の4項目について要請を受けた。

- (1) 耐震計算誤入力の再発防止対策に係る監査の実施
- (2) 風通しのよい職場風土の醸成及びコンプライアンスの徹底
- (3) 耐震計算誤入力の件についての広聴広報活動の実施
- (4) 日本原子力技術協会による当社と協力会社との連携についての評価

これら4項目について、2020年4月から2020年6月までの実施状況を以下に報告する。

2. 実施状況

(1) 耐震計算誤入力の再発防止対策に係る監査の実施

計算機による設計解析を行う安全性評価業務が新たに発生した場合に、耐震計算誤入力の再発防止対策に係る監査を実施することとしているが、当該業務は発生していない。

(2) 風通しのよい職場風土の醸成及びコンプライアンスの徹底

① 風通しのよい職場風土の醸成に関する活動について

働き方改革の取組みとして、2020年3月に行った「働きやすさアンケート」結果を踏まえ、明るく、楽しく、元気よく働ける職場を、社員の声を踏まえつつ実現していくことを目指して、多様な働き方やコミュニケーション活性化等に関する各職場のニーズや困りごとについて話し合う職場ミーティングを実施している。2020年4月から6月においては、昨今の新型コロナウイルス感染症対策として実施しているテレワークを題材に小規模ミーティングを複数回実施した。本ミーティングは、今後全社を対象に上期中に20回実施する計画である。また、階層別研修等において職場コミュニケーションの活性化に関するカリキュラムを入れ込み、全階層の研修において実施した。

② コンプライアンスの徹底に関する活動について

第8回コンプライアンス推進委員会（2020年3月10日開催）で審議した「2020年度コンプライアンス推進活動計画」に基づき、従業員の意識・知識の向上等に向けた活動に取り組んでいる。

2020年度第1四半期は、新入社員向けコンプライアンス研修、法令手続き漏れ防止を図る連絡会、メールマガジンの発行を行った。

③協力会社への個別訪問

協力会社との双方向コミュニケーション活動の一環として、2020年6月3日から6月23日までの期間で協力会社（67社）へ個別訪問し、2019年度の個別訪問で受けた意見に対する当社の対応状況について報告した。

（3）耐震計算誤入力の件についての広聴広報活動の実施

耐震計算誤入力の件については、新聞広告や当社広報誌、地域会議などを通してお知らせしている。（2007年10月29日に報告済）

今後も当社事業全般に関して様々な広聴活動を継続するとともに、頂いたご意見を踏まえて、わかりやすい広報活動に取り組んでいく。

（4）日本原子力技術協会による当社と協力会社との連携についての評価

2007年12月27日に日本原子力技術協会（現 原子力安全推進協会）より受領した「協力会社との連携に関する特定評価」における改善要望に対する当社の取組み状況の確認結果について、2009年2月3日に日本原子力技術協会より報告を受けた。（2009年4月16日に報告済）

今後、改善要望に対する取組み状況について然るべき時期に改めて確認を受けることとなっている次の項目については、以下のとおり対応している。

- ①「協力会社に発注した業務の管理」
- ②「協力会社とのコミュニケーション改善」
- ③「言い出せる文化・職場風土の醸成」
- ④「コンプライアンス（企業倫理遵守）の取組み」

上記の①の項目については、「業務に精通した主管部署や品質保証部の監査への積極的な参加」や「工事を伴わない解析業務の一貫した管理のルール化」等、確実な設計管理を行うための仕組みを構築し、運用している。

上記の②、③、④の項目については、前述の「2.（2）風通しのよい職場風土の醸成及びコンプライアンスの徹底」において取り組んでいる。

以上